

## 会議の概要

会議名	平成 26 年度 宝塚市食育推進会議 第 1 回 会議
開催日時	平成 26 年 (2014 年) 9 月 19 日 (金) 午後 2 時～午後 4 時 15 分
開催場所	宝塚市役所 3 階 特別会議室
出席委員	保田委員、後藤委員、藤田委員、河内委員、岡本委員、北山委員、田中委員、梅木委員、藤永委員、多田委員、小東委員、山本委員、福永委員、伊藤委員、深田委員、古塚委員、栗本委員 (17 名)
欠席委員	山下委員、西田委員 (2 名)
傍聴者数	なし
公開の可否	公開
	<p>1 開会  (1) 委員委嘱  (2) 市長あいさつ  (3) 各委員の紹介  (4) 会長及び会長職務代理者の選出</p> <p>2 議題  (1) たからづか食育推進計画の取り組みについて  (2) 平成 26 年度 たからづか食育フェアについて  (3) たからづか食育推進計画 (第 2 次) の策定について</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(1) たからづか食育推進計画の取り組みについて</p> <p>事務局より説明  (委員)  資料 5 P7 17: 給食の放射能測定について  市のホームページを見ると、今年度は 6 月の測定だけである。昨年度は頻回に色々な食材を測定し、結果を掲載していたが、継続されないのか。  (教育委員会: 学事課)  当初は給食 1 食丸ごと測定していたが、検出されなかったため、食材単位で測定することとなり、昨年度までは、東日本産のものを中心に測定を行ってきた。  今年度は規模を縮小し、過去から測定し、検出されていないものについては測定せず、新たに使用するものについて測定することとなった。  極力地元産のものを使用し、遠くのをあまり使用していないという実態もあり、検査品目数が減っている結果になっている。  その旨わかるように、今後ホームページを改良していきたい。  (委員)  農林水産省のホームページなどを見ると、今でもコンスタントに放射能は検出されている。昨年検出されていなければ今年も出ないというのはいかなることかと思う。よろしく願いたい。  (保田会長)  食材単独も含めて報告いただいた方が良いのかも知れない。工夫してください。  (委員)  資料 5 新規事業全般について  平成 26 年度、ほとんどが継続事業であり、新規は 2 事業となっている。</p>

P 7 17 新規事業、宝塚学校給食カレーの大試食会（2,000 食）は非常にインパクトのある事業であった。このような事業が増え、市民に食についてアピールできればと思う。宝塚市ががんばっていると市民へのアピールにもなる。

（事務局）

いただいた意見を周知し、来年度の事業展開で工夫していきたい。

（委員）

大きな事業はインパクトがあり、多くの来場者もあり良いと思う。

我々が行っているような継続事業も、少しずつ浸透し、効果も現れている。継続した事業も大事であると思うので、続けていきたいと思う。

（委員）

資料 4 P2 12：妊婦歯科検診について

計画目標値（12 回×20 人 240 人）と実施状況（12 回 125 人）の差が大きく、気になる。他市と比べてもかなり少ないように思う。

ライフステージの最初の肝心な部分でもあるため、検診者数が増えるよう市と話し合っていかなければならないと思う。歯科医師会からも市へ提案したい。

（委員）

妊娠期の歯科検診の必要性を多少脅すくらいに P R した方が良いと思う。

（委員）

昨年度、歯科医師会主催の講演会へ参加した。非常によい講演会であった。今後もこのような講演会を行って欲しい。

（委員）

広報やホームページで市民に P R するだけでは、人集めも大変である。今後ネットワーク等を作り、そこから情報を発信していく仕組みづくりも大切だと思う。

（事務局）

現在のたからづか食育推進計画は平成 27 年度で終了するため、新たな計画に向け、平成 26 年度・27 年度に見直しをかける予定である。

どのようにすれば効果的に食育を推進できるのか皆様のご意見をいただきたく思っている。よろしくお願ひしたい。

（2）平成 26 年度 たからづか食育フェアについて

事務局より説明

（委員）

アンケートによると、甲子園大学が行った S A T システムは、大人の方が良かった、おもしろかったという意見が多かったように思う。私も実際にやってみておもしろかったが、子どもがやってもおもしろいのではないかと思った。ゲーム感覚を前面に出し、子どもにもやってもらえばよかったのではと思った。

（委員）

アンケートにはあまり書いてもらえていなかったが、子どもも多く体験してもらった。（参加者の約半分は子どもであった）

（会長）

食育フェアでは、自分の生活の振り返りができるシステムがあればよい

と思う。単に食べて楽しむだけでは「食育」にはならない。教育効果を出さなければならない。自分の食の問題が多少でも発見できればよいと思う。

(委員)

食育フェアには毎年参加している。アンケートにも記載されているが、開催場所が、西公民館が多いように思う。宝塚市には東公民館もある。東公民館付近の市民が西公民館まで来るのは大変である。交互にする等すると更によいと思った。

手洗いチェックで、手洗い不足の再確認ができ、その後手洗いを意識するようになった。会長が発言されたように、自分の生活の問題が発見でき非常に良かった。

(事務局)

東公民館の付近の方には、西公民館は遠く行きづらいところはある。しかし実際に講演会等を行った際、西公民館の方が、集まりやすいという実績があり、西公民館で開催している。

(会長)

今後検討して欲しい。

(委員)

川合学長の講演会は非常に良かった。アンケートにもあったが、若い学生が多く参加していたことはとても良いと思った。

(会長)

学生にとっても市民と接することは勉強になり良いことである。今後も学生の力を借りてもらいたい。

(委員)

男性の参加が少ないのは問題ではないか。子どもに対し食の話をする際、母親と父親が話す場合とでは違うのではないか。またそのことで、父親自身の食も変わるのではないか。まず大人が実践できなければ子どもには教えられない。男性が参加できる工夫をお願いしたい。

(委員)

学校給食が前面に出ているように思う。学校給食には力を入れているが、大人の食育が霞んでいるように思う。子どもに伝えるべき大人の食育ができていない。実際、家庭の食事がどのようになっているのか知り、今一度大人の食育について考えなければならないと思う。

他市では年に何度か歯科医師会や医師会、健康福祉事務所等と一緒に食育フェアを実施しているところもある。また家庭での食育が根底から崩れているので、女性に任すだけでなく男女参画で取り組む必要がある。

(会長)

本来食育とは子どもの変化に期待する大人の行為。子どもが変わることが最終目的であるが、そのためには大人が変わらなければならない。

大人を変えるためには、特に男の大人への食育を研究しなければならないと思う。

(3) たからづか食育推進計画(第2次)の策定について

事務局より説明

(委員)

野菜を販売している。知らない野菜を買わないことがまず問題ではない

か。販売している人に、どのように調理し食べたらよいのか聞くことも大事。米も種類によって味が違う。子どもたちに伝えていくためには、農家の人に聞くなど、大人たちも勉強することが大切だと思う。

(会長)

学びの機会が少ないことも問題である。どのように機会を提供すればよいか考えなければならない。

(委員)

好きなものだけを出し、好きなものだけを食べるのではなく、見たことのない食材もおいしく食べれることをアピールした方が良いと思う。

わからない野菜の調理方法等を自分で知ろうという人はなかなかいないように思う。例えば、食育フェア等で見たとことのない野菜を調理し、おいしさを知ってもらう、レシピを配布する等の方法も良いと思う。

(会長)

食育フェアで、毎年テーマを決め、「野菜を知ろう」「魚を学ぼう」等行っていくのもよい方法である。

(委員)

食事へ行くというと「おいしいもの」という言葉がすぐに出てくる。

サラダは出てくるが、あえ物や煮物は全くなく、だしでおいしく食べる日本食でなければ健康長寿は守られないと思う。

手軽さ重視であるが、原点に戻り、日本食の大切さ、米の良さを知る等もう一度考えなければならない。

そのためには、宝塚の現状を把握することも大切である。

(委員)

食育の問題は社会的課題である。私の団体では、学びの場やノウハウをたくさん持っている。我々の理想図を含め皆で解決できるよう取り組んでいきたいと思う。

(委員)

色々なものが簡単に手に入る時代。食材等を選ぶ力を養うことが大切。特に義務教育が終わり、親になるまでの世代が食生活を乱す1つの要因であるが、なかなか行政が踏み込めない実状にある。一番大事な年代であるため、一緒に考えていければと思う。

(会長)

主に食育を体系的に実施しているのが小学校である。現在小・中学で連携していこう、また新たに県では、高校においても食育に取り組んでもらうよう働きかける声も出てきている。市だけでなく学校との連携も視野に入れて欲しい。

(委員)

朝食を作らない等、特に問題のある親には、学校から食の大切さを伝えてもらうシステムを作ってもらいたい。

(会長)

子ども自身が自分で食事を作れるようになることが大切である。

(委員)

今後アンケートを取る際、食べているか、食べていないかを聞くだけでなく、なぜ食べられないのかまでを聞き、その理由を解決するようなアンケートを作成して欲しい。

(委員)

市内にある大学であるため、今後も一緒に取り組んでいこうと思う。  
よろしく願いしたい。

その他

次回、宝塚市食育推進会議 第2回会議  
平成27年2月19日(木)